
再び！ シンオウ地方

殻の中のトレーナー

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

再び！ シンオウ地方

【Nコード】

N0659Y

【作者名】

殻の中のトレーナー

【あらすじ】

イツシュ地方から帰ってきたサトシを迎えたのはエニシダだった。エニシダ「もう一度シンオウ地方へ行ってもらえないかい」それはシンオウ地方のバトルフロンティアへの招待状だった。そして新たな目標を胸に聡はシンオウの大地を踏む！

第一話 旅立ち（前書き）

ポケモンでの初投稿です。拙い部分もありますが、温かい目で見てもらえると嬉しいです。

ハナコとオーキドとケンジはサトシノ背中を見つめていた
オーキド「行ってしまいましたな」

ハナコ「いいんです、次に会った時どれだけ成長しているか楽しみにできますから」

ハナコは自分の息子の将来を期待して微笑んでいた。

第一話 旅立ち（後書き）

駄文で本当にすみません。これからも努力しますのでよろしく願います。

第二話 参上!ポケモンドクター(前書き)

今回も駄文だと思います。しかしみなさんぜひ読んでください。よければ感想をお願いします。

第二話 参上！ポケモンドクター

サトシは今シンオウ行きの船に乗っている。急いで出発したおかげで夕方の船に間に合ったのだ。

サトシ「よかったなこの船に乗れて、な、ピカチュウ」

ピカチュウ「ピッカピ」

？「誰かその子を止めて」

その声とともにサトシのほうにやってきたのは「パチリス」だった。

サトシ「パチリスだ」

パチリス「パチパチパ」

そのままパチリスはサトシに保護？された。

？「ありがとうございます。この子とてもおてんばなので」

サトシ「あれ？ノブコさん？」

ノブコ「サトシさん！おひさしぶりです」

サトシ「ああ、おひさしぶりです」

この人物はダイヤモンド・パールの最終回の前で登場した。保育士見習いのノブコだ。

ノブコ「今一人なんですか？」

サトシ「は、はい。そうなんです」

ノブコ「タケシさんにいろいろと習いたかったのに」

サトシ「タケシは今ポケモンドクターとしての研修中なんですよ」

ノブコ「そ、そうなんですか！すごいですね、じゃ今家の保育園の

ポケモンたちもいずれ診てもらえる機会があるんですかね」

サトシ「パチリス以外にもいるんですか」

ノブコ「はい。チラーミイとメリープとヒメグマです。」

サトシ「俺見に行ってもいいですか」

ドローリーーン

ノブコ「な、なに」

乗客「船首のほうで爆発があったみたいだぞ」

ムサシ「バカだねえ」

コジロウ「ま、ジャリボーイにこの作戦は分からないだろう」

ニャース「おみゃーら、早くポケモンを出すにゃ」

ムサシ「わかったわよ、いけリザードン」

コジロウ「いけボスゴドラ」

サトシ「このポケモンは」

コジロウ「そうさ、ニビジムの時にボスから頂いたポケモンだ」

ムサシ「リザードン、ドダイトスに炎の渦」

コジロウ「ボスゴドラはゴウカザルに水の波動」

サトシ「ゴウカザル、ボスゴドラにマッハパンチ、ピカチュウはリザードンにエレキボール！」

ゴウカザル「ゴウカ！」

ピカチュウ「ピーカーチュウ！」

リザードンとボスゴドラより早くゴウカザルとピカチュウの技が命中した。

リザードン「リザー」

ボスゴドラ「ボスゴー」

サトシ「ドダイトス、ニャースにエナジーボール！」

ニャース「ニャニー」

ドーン

煙が晴れた先には倒れたりザードン、ボスゴドラそれとニャースがいた

ムサシ「卑怯よ、3体も使うなんて」

コジロウ「そうだそうだ」

サトシ「ニャースもバトルに参加してたんじゃないのか？」

ムサシ「こんななにも使えないやつ、バトルに参加してるわけないでしょ」

コジロウ「そんなこともわからないのか」↑少しはニャースをかばおうよ by 作者

サトシ「あ、たしかに」

「君たち今バトル中じゃないの？」と疑問に思う2人以外のロケツト団だった。

ロケット団「あのムサシさん、コジロウさん次の指示を」

コジロウ「ポケモンの捕獲状況は」

コジロウ 「ポケモンの捕獲状況は」

ロケット団「はっ、船の中のトレーナーと我が団で戦闘状態に入っています」

ムサシ 「フェイズ2に進め」

ロケット団「はっ」

サトシ「お、おい、待てよ、ロケット団」

ムサシ「じゃあね、ジャリボーイ」

そしてあたりが煙に包まれて、煙が晴れた後には誰もいなかった。

サトシ「クそー、ロケット団めどこに行つたんだ。とにかく戻るぞみんな」

そしてサトシはノブコと別れたところに走って行った。



乗客 「 「 「 「 「げほっ、げほっ、げほっ」 「 「 「 「 「

サトシ 「どうしたんだ！」

ゴウカザル「ゴ、ゴウカ」

ドダイトス 「ド、ドダ」

ピカチュウ 「ピカ、チュウ」

サトシが振り返るとポケモンたちが苦しみながら倒れていた。

ロケット団「よし、ポケモンたちを回収しろ」

ロケット団「ガスもそのまま出し続けろ」

ロケット団はガスを出してポケモンたちを倒していた。

サトシ「許さないぞ、ロケット団、ムクホーク君に決めた！」

ムクホーク 「ムツクホーク」

サトシ「ムクホーク、このガスを部屋の外に出すんだ」

ロケット団「どうしてあいつこの部屋の中で立っていられるんだ」

ロケット団「いいからあいつを止めるんだ、いけへルガー」

ヘルガー
「ヘルガー」

ロケット団「ヘルガー、火炎放射」

サトシ「ブイゼル、君に決めた！」

ブイゼル「ブイブイ」

サトシ「ムクホーク、ブイゼル、負けないでくれ」

ムクホーク「ムクホーローク」

ブイゼル「ブイブイロー」

サトシ「ブイゼル、アクアジェットだ」

ドローン

ロケット団「ヘルガー、戻れ」

ムサシ「何やってるのよ！」

コジロウ「ガスが消えている」

ニャース「この展開は…」

サトシ「ムクホーク、よくやった」

ゴウカザル「ゴウカ！」

ドダイトス「ドダッ」

ピカチュウ「ピッカチュウ」

サトシ「みんな、大丈夫だったか、よしムクホークはブレイブバ

ド、ゴウカザル、火炎放射、ピカチュウ、エレキボール、

ドダイトス、エナジーボール、ブイゼル、水鉄砲」

ゴウカザル「ゴウカロー」

ピカチュウ「ピッカチュウ……」

ドダイトス「ドダロー」

ブイゼル「ブイブイブイロー」

ドカーローン

ロケット団たち「「「「ギャローン」」」」

ムサシ・コジロウ・ニャース「「「やな感じ」」」

サトシ「やったぜ！ ありがとうみんな、ゆっくり休んでくれ」

乗客「いや、君もすごいな」

乗客「さっきの保育士見習いさんとドクターの子もすごいですけどね、あなたもなかなかですよ」

サトシ「へえ、そんなにすごいですか」

乗客「それはもう、人だけじゃなくてポケモンもすぐに直したんですから」

ノブコ「あ、いたいたサトシさん大活躍でしたね」

サトシ「そんなことないですよ」

ノブコ「紹介したい人がいるんですよ、どうぞ」

サトシ「タ、タケシ」

タケシ「久しぶりだな、サトシ」

第二話 参上!ポケモンドクター(後書き)

恋愛要素を次あたりから入れたいかと…

参上といった割には出演率低くね?と思われた方本当にすいません。自分の文才のなさがよく分かった気がします。ですが温かい目で見守っていただけると嬉しいです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0659y/>

再び！ シンオウ地方

2011年11月16日19時52分発行